PMS-2032(18012)
施工説明書

吐水口引出式 シングルレバー混合水栓

LF-E345SYC型

工事店様へのお願い
貴店名ならびに据付引渡し日を保証書にご記入の上、お客さまに必ずお渡しください。また、定期的に交換が必要な部品があることをお客様に必ずお伝えください。

商品の機能が100%発揮されるよう、本説明書の内容を十分ご理解のうえ正しく施工してください。
なお施工完了後、この施工説明書を同梱の「取扱説明書の袋」に入れてお客様にお渡しください。

1. 施工の前に

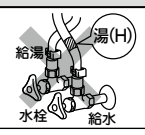
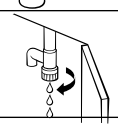
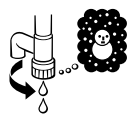
安全上のご注意

●施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
●ここに示した注意事項は状況によって重大な結果に結びつく可能性があります。
●いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●施工完了後、正常に作動することを確認してください。お客様に引き渡すときは、取扱説明書にそって使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
●この施工説明書は、取扱説明書と共にお客さまで保管いただくように依頼してください。

用語および記号の説明

注意 …「取扱を誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物理的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。」
⚠ …「注意しなさい!」(上記の『注意』と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。
⃠ …「してはいけません!」(一般的な禁止記号です。)
…「分解してはいけません!」
❗ …「指示通りにしなさい!」(一般的な行動指示記号です。)

⚠ 注 意

(禁止)	**湯水を逆に配管しないでください。** ※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをする恐れがあります。	
(禁止)	**給湯器の温度設定は85℃以上で使用しないでください。** ※水栓が破損し、ヤケドや家財等を濡らす恐れがあります。	
(禁止)	**衝撃を与えたり、もたれかかったりしないでください。** ※破損してケガをしたり、漏水や故障の原因となります。	
(禁止)	**水抜栓は水抜き以外の目的で開けないでください。** ※湯水が噴き出し、ヤケドや家財等を濡らす恐れがあります。	
(分解禁止)	**修理技術者以外の人は水栓を分解したり、修理したりしないでください。** ※ケガをしたり、故障・破損の恐れがあります。	
(指示)	**お客さまに引き渡す前に凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。** **寒冷地仕様の水抜方法は、取扱説明書を参照ください。** ※凍結破損で漏水し、家財等を濡らす財産損害発生の恐れがあります。	
(指示)	**ヤケドの恐れがないところまで水圧変動を押さえた配管設備にしてください。** ※他所の水栓の使用などにより水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇し、ヤケドをする恐れがあります。	
(指示)	**必ず施工説明書の指示通りに施工してください。** ※誤った施工方法をされた場合、器具が外れ、ケガをする恐れがあります。	
(指示)	**取付けは必ず施工店が行ってください。** ※取付けが不安定となり、ケガをする恐れがあります。	
(指示)	**フレキホースの差し直しをする際は、必ず湯側水側両方の止水栓を閉じてから行ってください。** ※湯・水が噴出してヤケドをしたり、家財等を濡らす財産損害発生の恐れがあります。	

本製品の仕様と使用条件

給湯器温度設定	85℃以下	使用可能水質	水道水および飲用可能な井戸水(※1)
使用環境温度	【一般地用】 0～40℃		但し、内部の水を凍結させないでください。
	【寒冷地用】 −20～40℃		
給水給湯接続	G1/2		
圧 力 条 件	0.05MPa(流動圧)～0.75MPa(静水圧) 給水圧力≧給湯圧力 ※2		
取 付 条 件	水栓取付穴：φ34～φ38mm　カウンター厚：5～30mm		

※1 飲用可能な井戸水とは、水道法に定められた飲料水の水質基準に適合する水をいいます。
※2 給湯圧力が給水圧力よりも高い場合、正常な調節ができなくなり、ヤケドをする恐れがあります。

ガス給湯器（比例制御式：16号相当）と組み合わせる場合の給水圧力

最低必要圧力	A＋0.14MPa（流動圧）：給湯器設定温度75℃ A＋0.11MPa（流動圧）：給湯器設定温度60℃ A＋0.06MPa（流動圧）：給湯器設定温度42℃
最 高 圧 力	0.75MPa（静水圧）

測定条件は次の通りです。
●レバーハンドルは全開です。
●給水温度5℃、吐出温度42℃(ガス給湯器との組み合わせが最も悪い冬季を想定)。
●給水圧力はガス給湯器直前における流動圧です。

貯湯式給湯器と組み合わせる場合の給水圧力

最低必要圧力	0.05MPa（流動圧）
最 高 圧 力	0.75MPa（静水圧）

●給水圧力と給湯圧力の差を小さくしてください。温度調節が容易になり使いやすくなります。

その他の条件
●給水圧力が0.75MPaを越える場合は、市販の減圧弁で適正圧力（0.20～0.34MPa程度）に減圧してください。
●不意の出湯によるヤケド防止のため、**給湯器の設定温度は60℃以下**をおすすめします。

施工前のご注意

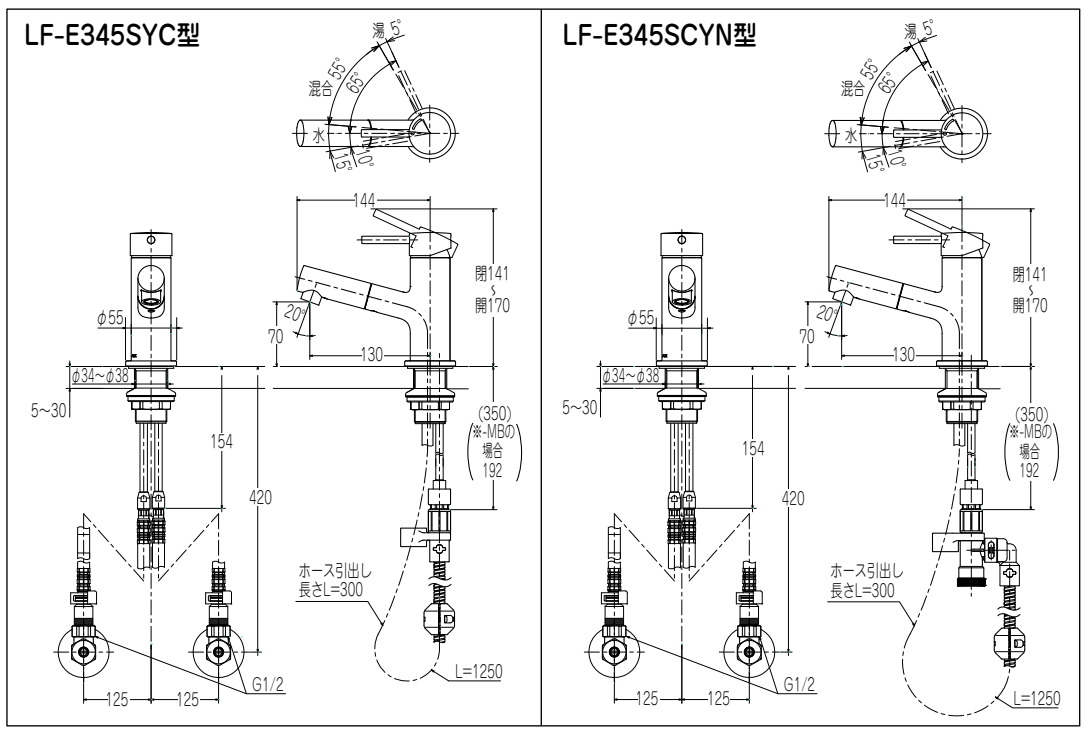
取付けに必要な工具
●取付けには、プラスドライバー、マイナスドライバー、スパナ(対辺23)、専用工具「KG-9(対辺38)」が必要です。

止水栓と点検口を設けてください
●取付後の流量調節及び保守点検のために、必ず止水栓（別売）と点検口を設けてください。
●使い勝手や性能発揮のために、**必ず流量調節をしてください。**特に水圧が高い場合など、流量調節がされていないと漏水・破損の恐れがあります。

その他の注意点
●給水には上水道を接続してください。
※温泉水など異物を多く含む水には使用できません。
●給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確認してください。
※逆配管では表示通りに湯が出ません。
●給湯配管はできるだけ短くし、必ず保温材を巻いてください。
●商品の表面には、直接工具を掛けないでください。
※工具を掛ける場合には、必ず商品に布等をあてて保護してください。
●開梱、取付けの際には商品の表面に傷を付けないように十分に注意してください。
●必ず**配管中の異物を完全に洗い流してください。**
●取付カウンターが厚い場合や、大理石などの特殊な材料を使っている場合は取り付けできない場合があります。また穴あけなどの加工は十分注意して行ってください。

施工完了図

※品番によっては、図と現品の形状が一部異なります。
※止水栓位置の寸法は代表例です。
-MBの場合、給水給湯用止水栓の取出位置は、化粧台の施工寸法に準じてください。
※排水金具(別売)の操作レバーを、カウンターに取り付ける場合のカウンター厚は、排水金具の施工寸法に準じてください。

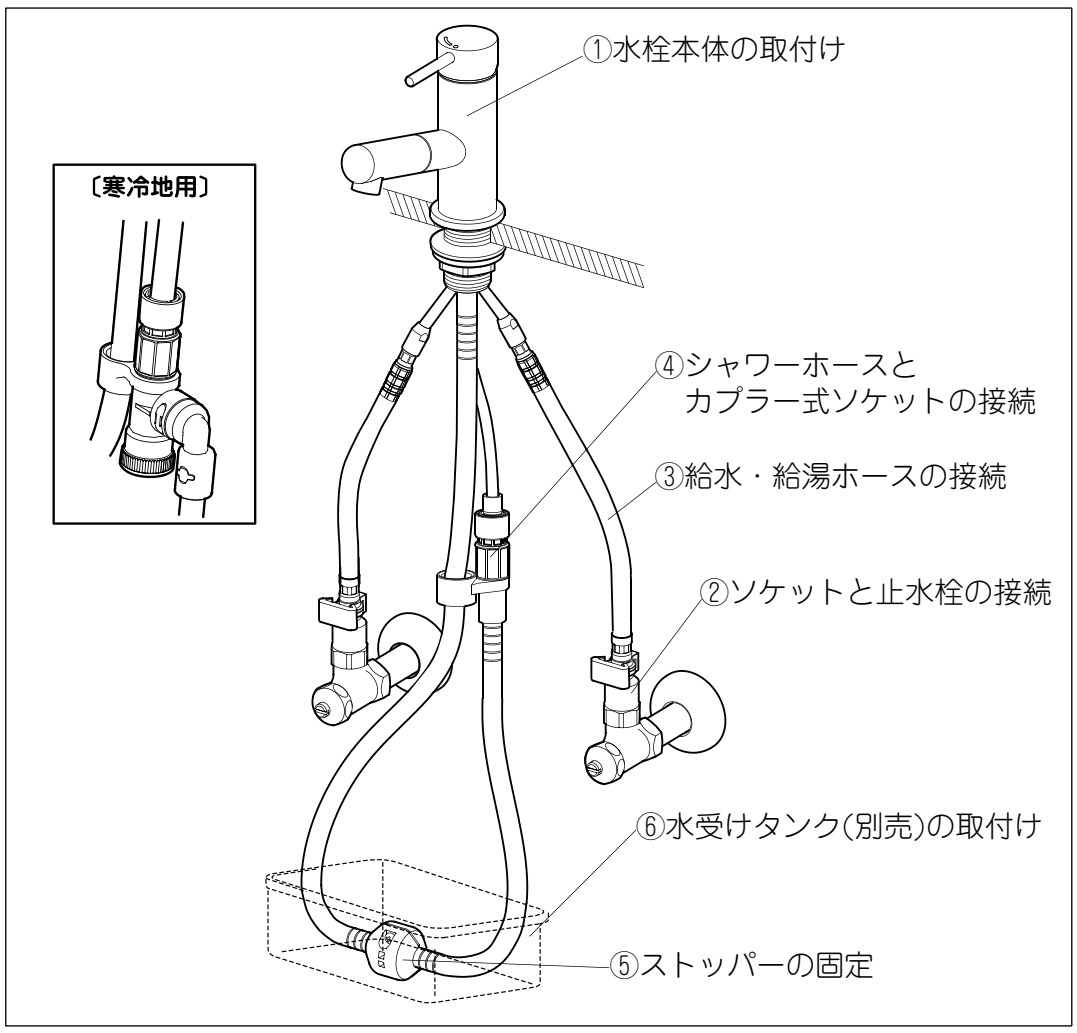


※水栓取付穴：φ34～φ38mm、カウンター厚：5～30mm

株式会社 LIXIL

●商品・施工方法についてのお問い合わせ
お客さま相談センターまで
ナビダイヤル TEL 0570-017-173
受付時間　平日　9:00～18:00
土日・祝日　9:00～17:00
(ゴールデンウィーク・夏期・年末年始の休みは除く)

施工手順



※排水金具は、水栓本体より先に施工してください。

2. 施工方法

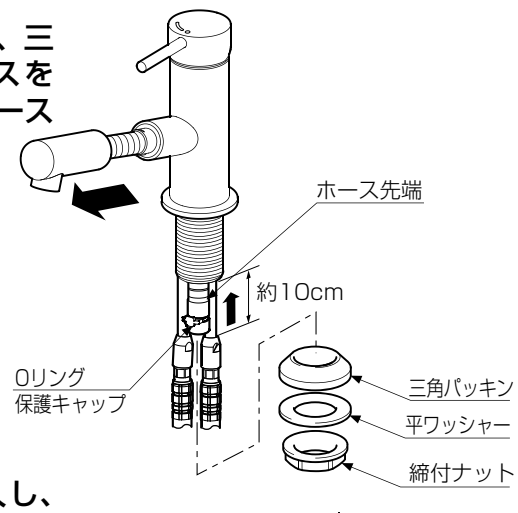
以下の手順の通り、正しく取り付けてください。

① 水栓本体の取付け

1. 本体から締付ナット、平ワッシャー、三角パッキンを外し、シャワーホースを引き上げる。その際にシャワーホース先端を10cmほど残す。

注 意

Oリング保護キャップは、カプラー式ソケットと接続する直前まで外さないでください。
※取り外すと、ホース先端のOリングがキズ付き、漏水の原因となります。



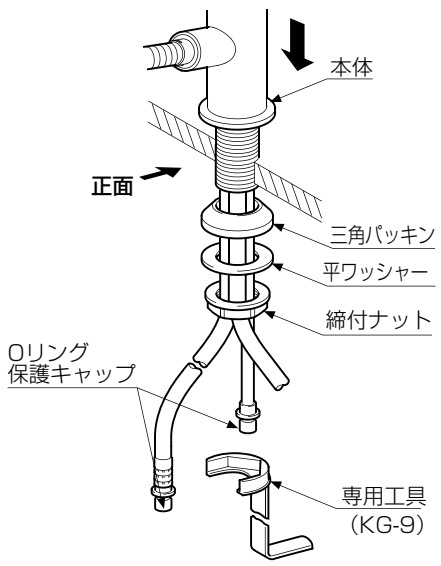
2. 水栓本体を、取付穴の上から挿入し、水栓本体を正面に向けた後、専用工具（KG-9）にて締付ナットを締め付けて、カウンターまたは陶器に固定する。

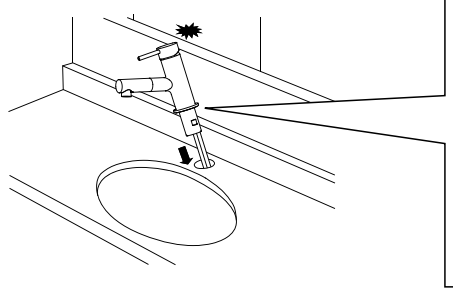
注 意

●Oリング保護キャップはカプラー式ソケットやソケットと接続するまで外さないでください。
※取り外すと、Oリングが傷ついてしまい、漏水の原因となります。
●締付ナットは、専用工具を使用して本体の ガタつきがないようにしっかりと締め付けてください。
※ガタつきがあると、漏水の原因となります。

ポイント

別売の専用工具(KG-9)を使用する。

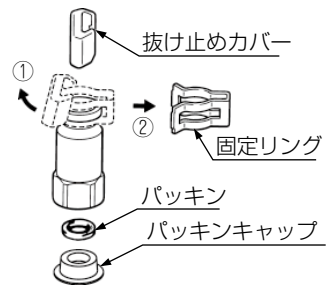




キャビネット等に施工する際、収納ミラーが水栓に干渉する場合は、吐出管と給水・給湯銅管を手前にゆっくりと曲げて施工してください。

② ソケットと止水栓の接続

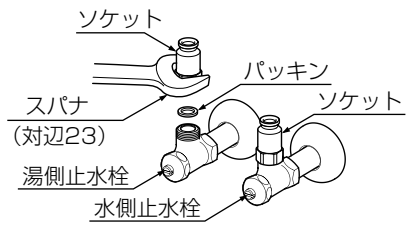
1. 抜け止めカバー、固定リング、パッキンキャップを外す。



注 意

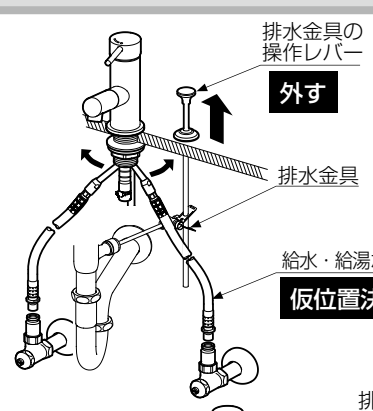
●ソケットは、製品に同梱されているものを必ずお使いください。
●パッキンの紛失に注意してください。
※漏水の原因になります。

2. ソケットを止水栓にスパナ（対辺23）で固定する。

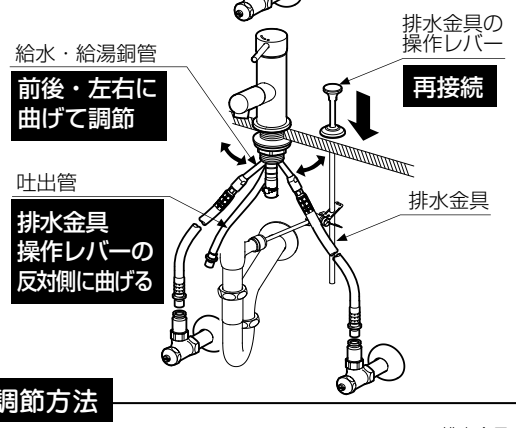


③ 給水ホース・給湯ホースの接続

1. 排水金具の操作レバーがある場合はレバーを外し、給水・給湯ホースが排水金具に当たらないように、また、止水栓に接続しやすいように、給水・給湯銅管を軽く曲げて、仮位置決めをする。



2. 排水金具の操作レバーがある場合はレバーを再接続し、排水金具に当たらないように、吐出管、給水・給湯銅管を、前後・左右に曲げて調節する。



注 意

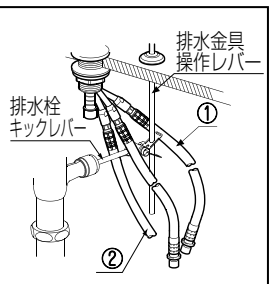
銅管を曲げる際は、ゆっくりと曲げてください。
※急に曲げると、銅管の破損や漏水の原因となります。

ポイント

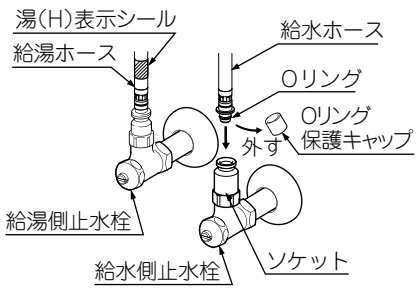
排水金具の操作レバーがある場合は、吐出管を、排水金具操作レバーの反対側に曲げて調節する。

調節方法

フレキホースと止水栓接続時、止水栓までの距離が近い場合は、給水ホースを排水金具操作レバーの後ろを通し（①）、遠い場合は排水栓キックレバーの下を通す（②）と取付けし易くなります。



3. 給水・給湯ホースのOリング保護キャップを取外し、ソケットに差し込む。

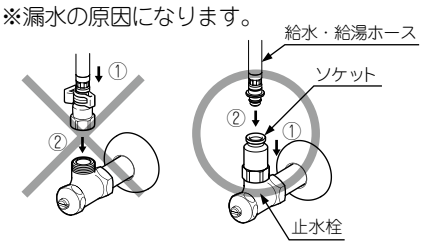


注 意

●Oリングに傷をつけたりゴミかみがないように注意してください。
※漏水の原因になります。
●給水・給湯ホースの差し間違えに注意してください。
※湯と水が逆に出て、ヤケドをする恐れがあります。

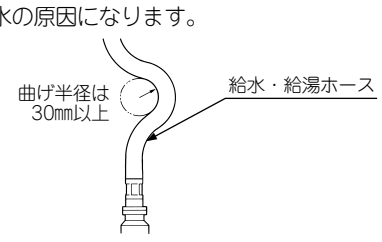
注 意

必ずソケットを止水栓に固定してから給水・給湯ホースを接続してください。
※漏水の原因になります。



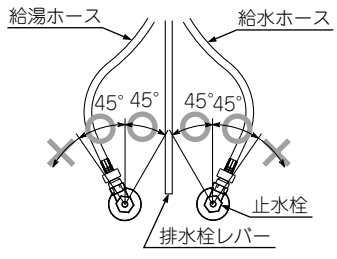
注 意

給水・給湯ホースを曲げる場合は、曲げ半径30mm以上確保してください。
※漏水の原因になります。

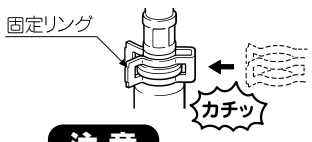


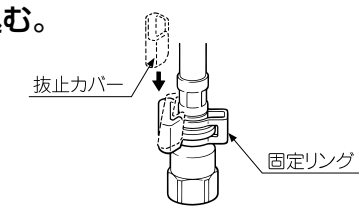
注 意

給水・給湯の取出位置によっては、排水栓操作レバーやシャワーホースと干渉しないように注意して、止水栓の向きを約45°以内で傾けて、給水・給湯ホースが無理に曲がらないように調節してください。
※排水栓操作レバーやシャワーホースが給水・給湯ホースと接触すると、「排水栓レバーの操作」や「吐水口の引出し」が重くなる場合があります。



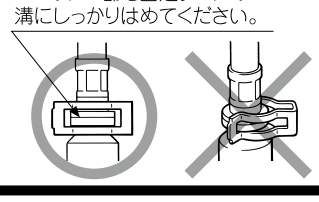
4. 固定リング、給水・給湯ホースとソケットの接続部（ツバ部）にはめ込み、抜け止めカバーを、固定リングにはめ込む。





注 意

固定リングはしっかりとはめ込んでください。
※固定リングが外れると漏水の原因になります。

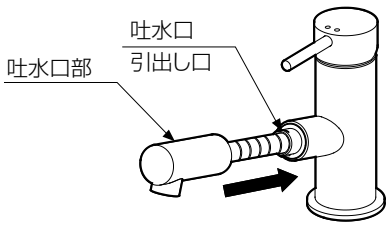


注 意

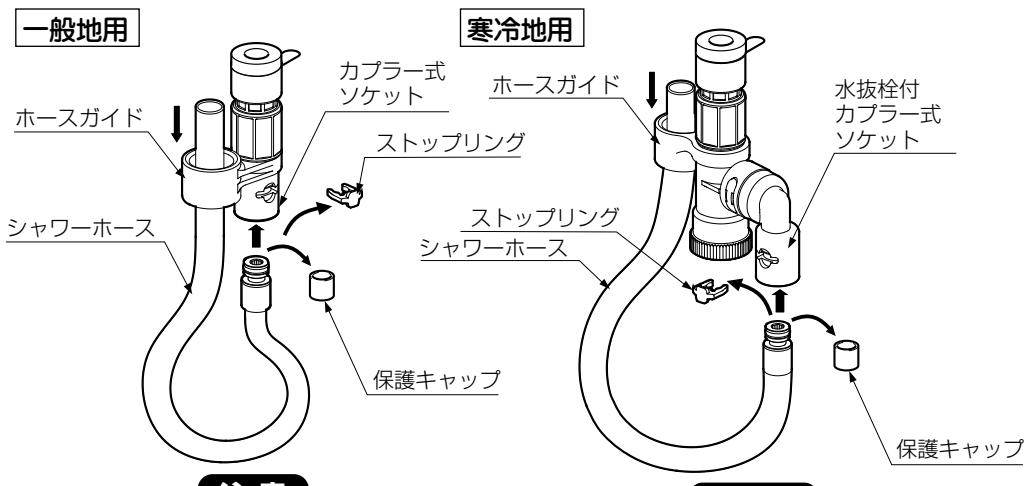
- **給水・給湯ホースを上に引き、確実に接続されていることを確認してください。**
  ※漏水の原因になります。
- **固定リングを回転させても外れないことを確認してください。**
  ※固定リングが外れて漏水の原因になります。

④ シャワーホースとカプラー式ソケットの接続

1. 吐水口部を吐水口引出し口に納める。



2. シャワーホースをホースガイドに通して、ストップリングと保護キャップを外し、カプラー式ソケットに差し込む。



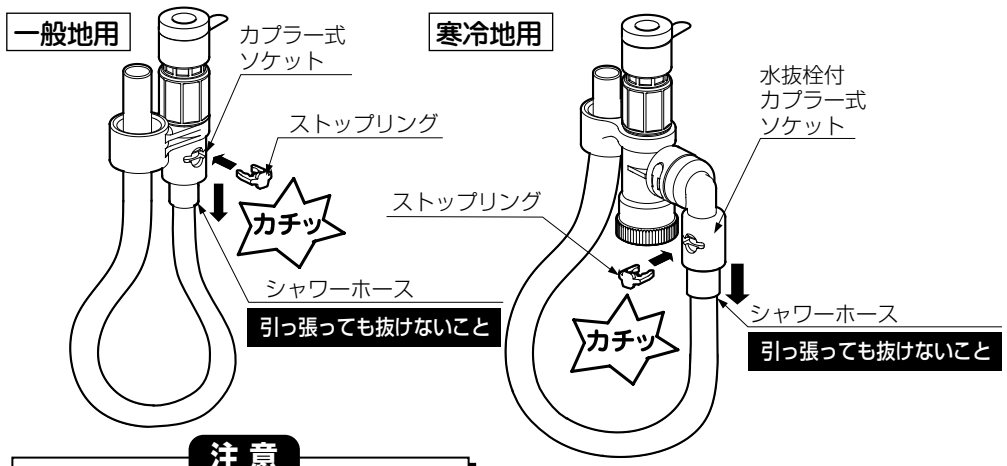
注 意

ストップリングを紛失しないように注意してください。
※シャワーホースが固定出来ず、漏水の原因となります。

ポイント

シャワーホースは奥までしっかりと差し込む。

3. ストップリングをカプラー式ソケットに差し込んだ後、シャワーホースを引っ張っても抜けないことを確認する。



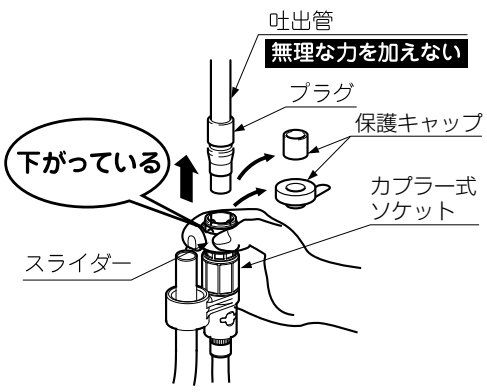
注 意

ストップリングはしっかりとはめ込んでください。
※ストップリングが外れると漏水の原因となります。

確 認

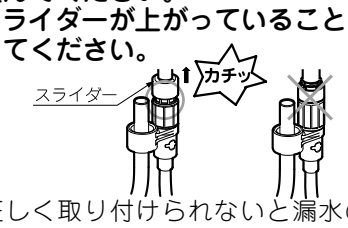
シャワーホースを引っ張っても抜けないこと。

4. カプラー式ソケットとプラグの保護キャップを外し、カプラーのスライダーが下がっていることを確認して、プラグに挿入する。



注 意

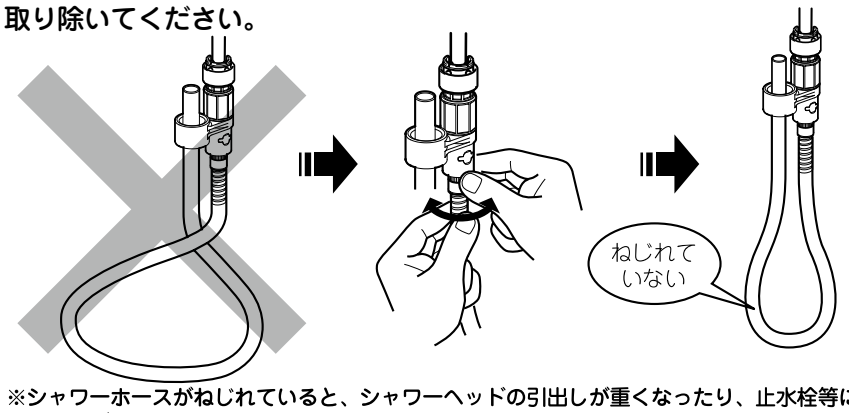
- **カチッと音がするまでしっかりと差し込んでください。**
- **スライダーが上がっていることを確認してください。**



※正しく取り付けられないと漏水の原因となります。

注 意

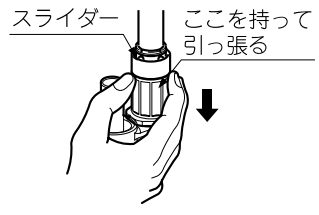
シャワーホースがねじれないように、接続してください。
ねじれる場合は、シャワーホースを回転し、シャワーホースのねじれを取り除いてください。



※シャワーホースがねじれていると、シャワーヘッドの引出しが重くなったり、止水栓等に干渉する恐れがあります。

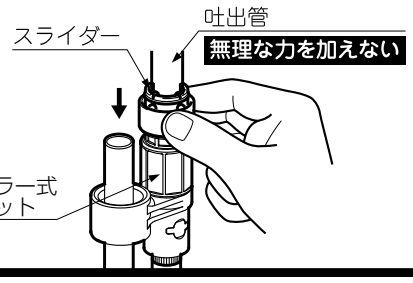
確 認

カプラーのスライダーより下の部分を引っ張って、抜けないこと。



ポイント

取り外す場合は、スライダーを下にずらしながら、カプラ式ソケットを下げる。

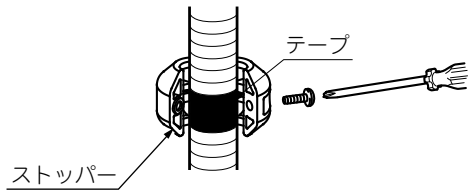


⑤ ストッパーの固定

シャワーホースの赤いテープ位置に、ストッパーを固定する。

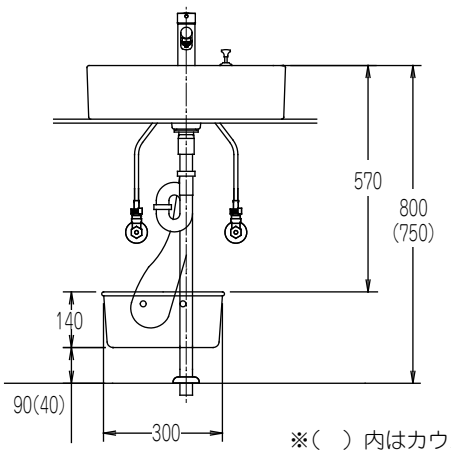
ポイント

- ホースをいっぱいまで引き出したとき、止水栓などに引っ掛かる場合は、ストッパーの位置調節　する。
- 引出長さの目安は約300mm。
- 化粧台との組合わせにより、ホース引出し長さは異なる。



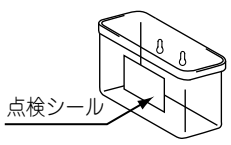
⑥ 水受けタンク（別売）の取付け

※LF-E345S(N)-MBまたは、エモア洗面化粧台に取付けの場合は、化粧台に同梱の施工説明書をご覧ください。

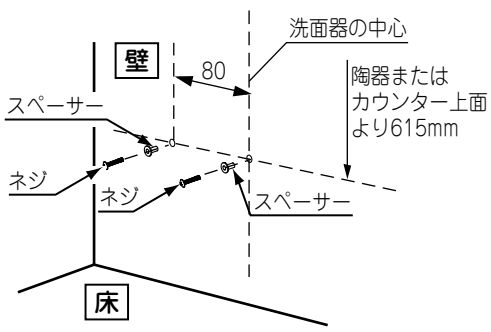


※（　）内はカウンター高さ750mmの場合

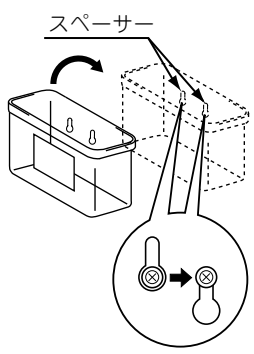
1. 点検シールを水受けタンクに貼り付ける。



2. スペーサーを右図の背板のキャビネットの指定位置へ手で固定し、スペーサーの穴の部分へねじを入れ、ねじ頭部がスペーサーに当たるまで差し込む。



3. スペーサーにタンクの丸い穴の部分を入れ、タンクを下ろして凸部に引っ掛けて設置した後、水受けタンクの位置が正しいか、上記の施工図で確認する。



注 意

必ず施工寸法どおりに取り付けてください。
※施工寸法の位置が正しくない場合、ホースが水受けタンクに引っ掛かり、吐水口部が吐水口引出し口に納まらない恐れがあります。

3. 施工後の調節

以下の手順の通り、正しく調節してください。

1 吐水口の引出確認・調節

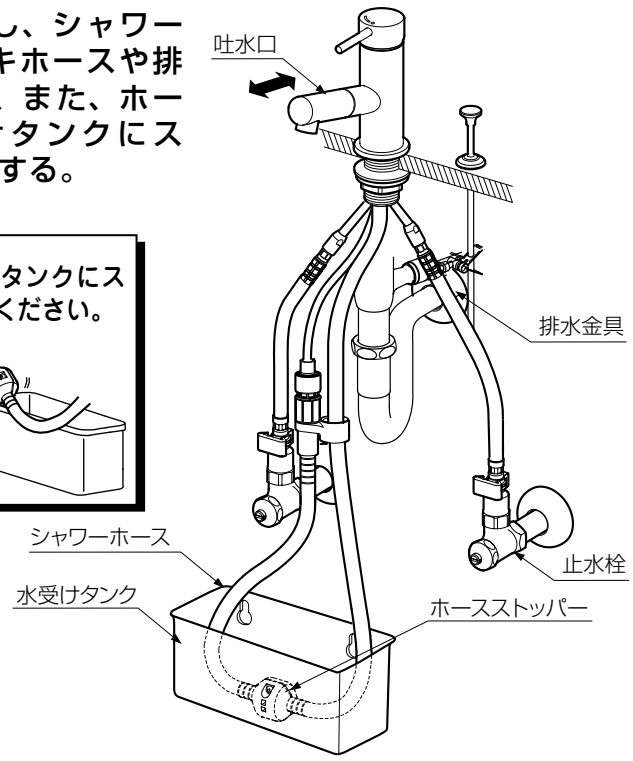
吐水口を引き出したときの確認・調節を、以下の要領で行ってください。

1. 吐水口を数回出し入れし、シャワーホースが止水栓やフレキホースや排水金具に干渉しないか、また、ホースストッパーが水受けタンクにスムーズに収まるかを確認する。

注意

必ずホースストッパーが水受けタンクにスムーズに収まることを確認してください。

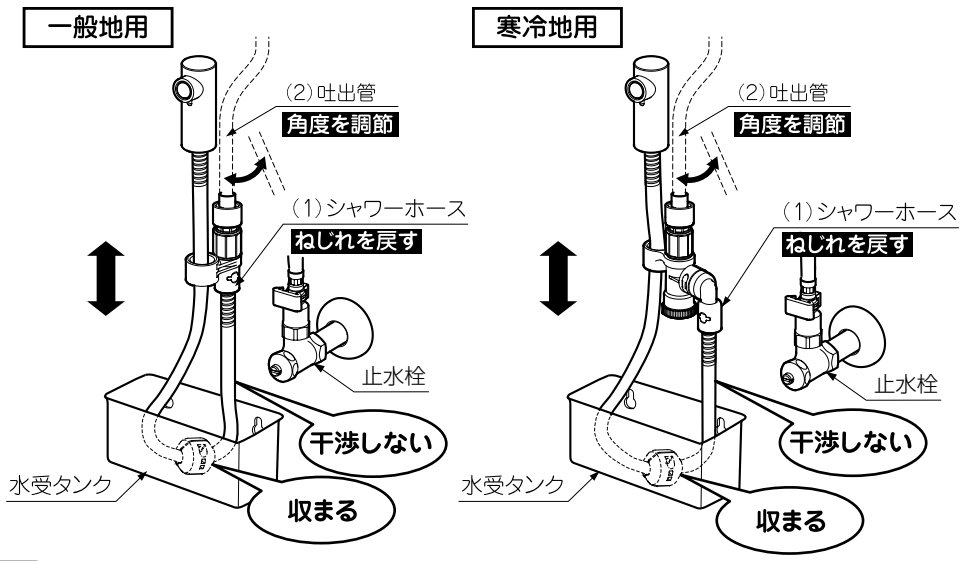
※ホースストッパーが水受けタンクと干渉し、異音や漏水の原因となります。



2. 干渉する場合は、「2.施工方法」③給水ホース・給湯ホースの接続「1.」を参照し、吐出管、給水・給湯銅管を前後左右に広げて調節する。それでも直らない場合は、以下の要領で調節する。

(1)シャワーホースのねじれを戻す。(方法は、④シャワーホースとカプラー式ソケットの接続「4.」の注意を参照ください。)

(2)吐出管の角度を調節する。



2 流量の調節

レバーハンドルを全開にしたときに、水側または湯側の流量が約 6L/min を超える場合は、止水栓で流量を調節をしてください。湯水の流量を調節後、レバーハンドルを中央の位置で全開した時、流量が多い場合は、湯水の流量が同じになるように、止水栓を徐々に絞って調節してください。

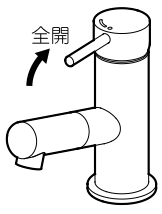
注意

必ず、流量調節をしてください。

※水はねやオーバーフローにより家財等を濡らす財産損害発生の恐れがあります。

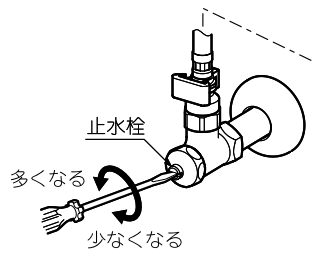
確認

最終点検時は配管接続部の水漏れ点検を十分に行なうこと。



ポイント

- 6L/min の目安は、市販の洗面器(容量 3L)をいっぱいにするのに約 30 秒。
- 湯と水の流量が同じくらいになるように止水栓で調節する。

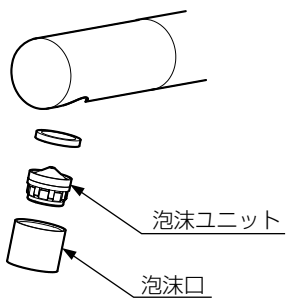


3 泡沫口の掃除

初期通水後のゴミを取り除くため、泡沫口内の泡沫ユニットの掃除を、以下の要領で行ってください。

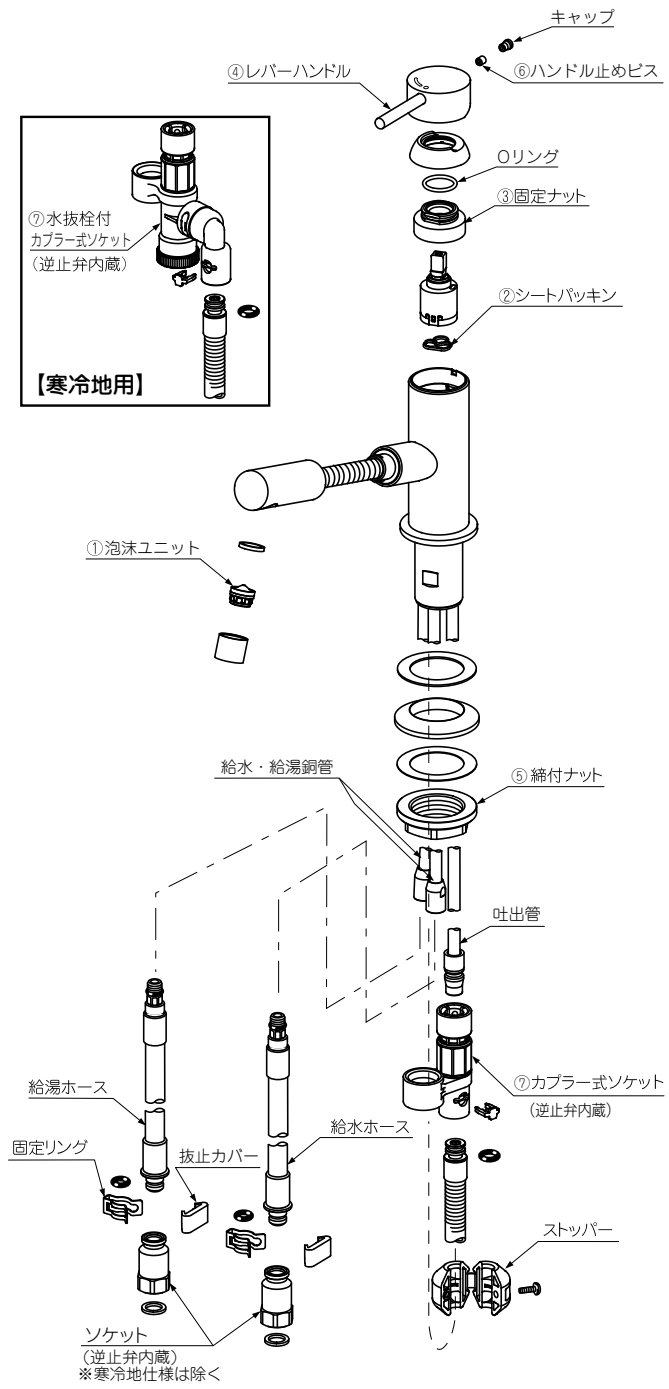
1. 泡沫口の紛失を防ぐため、排水栓を閉じる。または、排水口を布等でおおう。

2. 手で泡沫口を回して泡沫ユニットを取り外し、水で掃除する。



4. 引渡し前の確認

お客さまに引き渡す前に、以下のような現象がないか確認してください。
※点検箇所は、下図を参照して下さい。

現　象	点　検　内　容	点検箇所	処　　置
流量が少ない	圧力は十分か？	―	「使用条件」の項参照。
	配管途中に大きな抵抗はないか？	―	抵抗となる障害物を取り除く。
	泡沫ユニットのゴミ詰まりはないか？	①	ゴミ等を水で洗い流す。
	止水栓は十分開いているか？	―	止水栓を十分開く。
	能力切替付の給湯器と組み合わせてご使用の場合、能力設定は適正ですか？	―	能力設定を適正にセットする。
水が止まらない	ゴミかみはないか？	②	ゴミ等を水で洗い流す。
	キズはないか？	②	キズがあれば部品を交換する。
	ゆるみはないか？	③	カートリッジ固定ナットを締める。締めすぎるとレバーハンドルが重くなることがありますので注意してください。
ハンドルが右側に回らない	ハンドルの操作位置は正しいか？	④	エコハンドル仕様のため、レバー操作範囲が従来のシングルレバーと異なります。(施工完了図参照)
希望の温度が得られない	ハンドルの操作位置は正しいか？	④	エコハンドル仕様のため、レバー操作範囲が従来のシングルレバーと異なります。(施工完了図参照)
	圧力は十分か？	―	「使用条件」の項参照。
	流量調節はよいか？	―	「使用条件」の項参照。
	泡沫ユニットのゴミ詰まりはないか？	①	ゴミ等を水で洗い流す。
泡沫吐水口がスムーズに引き出せない	シャワーホースが排水金具等の他部品と干渉していないか？	⑦	「シャワーホースとカプラー式ソケットの接続」の頁参照。
水栓本体がガタつく	ゆるみはないか？	⑤	締付ナットをしっかり締める。
レバーハンドルがガタつく	ゆるみはないか？	⑥	ハンドル止めビスをしっかりと締める。
ホースがスムーズに収納できない	シンク内でホースがねじれたり、配管等と干渉していないか？	⑦	「シャワーホースとカプラー式ソケットの接続」の頁参照。

※給湯圧力が低いときや水温が高いときは、給湯機器が着火しない場合があります。(直圧式給湯機器の場合)
この場合は給湯機器の設定温度を下げ、レバーハンドルを少し湯側へ回してご使用ください。